



なすびの花

新工場の看板

3月に、工場の縦貫道側に、大きな看板が設置されましたね。

この看板に、イーエルの事業内容として『IOT』『OEM』『EMS』のアルファベット文字が並んでいます。

このアルファベット文字は、社長や営業部、開発部以外の部署では、あまり使う機会はないかと思えます。

今月号では、このアルファベット文字についてご説明いたします。

1. 『IOT (Internet of Things)』

さまざまな物に通信機能を持たせ、遠隔操作などデータのやりとりができる仕組みのことです。

2. 『OEM』

こちらは、Original Equipment Manufacturing (オリジナル・エキップメント・マニファクチャリング)の略でお客様のブランドの商品を生産することです。

お客様が、商品の企画、設計・開発までを行い、製造は私たちが行う、といった仕事ですね。

3. 『EMS』

こちらは、電子機器受託製造のことで、Electronics Manufacturing Service (エレクトロニクス・マニファクチャリング・サービス)の略です。

他社ブランドの商品について、部材調達、企画、設計・開発、製造、配送などを一貫して行う仕事です。

お客様は、この商品を販売される、ということになります。

他に『品質・環境マニュアル』では、『ODM (Original Design Manufacturing)』

オリジナル・デザイン・マニファクチャリング』というのも定義されていて、こちらは、お客様が、企画された商品を、私たちが、お客様の要望に基づき、製品の設計やデザイン、製造までを行う仕事となります。

『EMS』との違いが、分かりづらいですが、『ODM』は、お客様と相談しながら、企画から製造までの各工程を決めますが、『EMS』は全てをお任せいただく形となっています。

製造現場ではあまり見かけることはありませんが、社内では、開発部や営業部といった部署が、お客様とやりとりの後に受注し、部材が手配され、製造現場へ、色々な形態の仕事が運ばれてきています。

略されたアルファベット文字を、私も品質環境マニュアルなどで、よく目にしますが、時間とともに忘れてしまい、部署内でもきちんと説明できないことがあります。

このような内容についても、時折、なすびの花の中でご紹介していこうと思います。

亀岡付近の地震

今年に入ってから、日本のあちらこちらで、大きな地震が発生しています。

まだ4月ですが、今年日本で発生している、震度5以上の地震は、先月の愛媛・高知で観測された地震が、10回目とのことでした。

さて、京都は大きな地震が少ない“など”よく言われますが、そんなことはなくて、かなり昔では、『慶長伏見地震』や、『北丹後地震』、最近では、『阪神淡路大震災』『大阪北部地震』など、幾度となく大きな地震被害に遭っています。

京都の中心部に「はなわだんそうたい花折断層帯」という断層があり、この断層が大きく動いて起こった地震が、1662年の『寛文近江・若狭地震』で、マグニチュードがおよそ7.5で、京都でも最大震度が6以上であったという記録があります。

また、1830年8月にも、亀岡付近が震央となった『京都地震』が発生しています。

この地震は、マグニチュード6.5で、被害状況は、『寛文近江・若狭地震』と似ていたという記録がありました。

余震は数週間から3カ月と、長く続くという特徴もあります。

いつかどこかで被災することを前提に、家でも会社でも、備えておくことが重要です。

私たちも、工場の移転という大きな環境の変化に伴い、品質環境マニュアルの避難経路や避難方法などに関連する箇所を、大幅に改訂しているところです。

自宅でも、家具の置き方の工夫、窓ガラスの飛散防止、食料・飲料などの備蓄、非常持ち出し袋の準備、家族の安否確認方法、避難場所・避難経路の確保といったことを、今一度、自分の周りで確認しておきましょう。